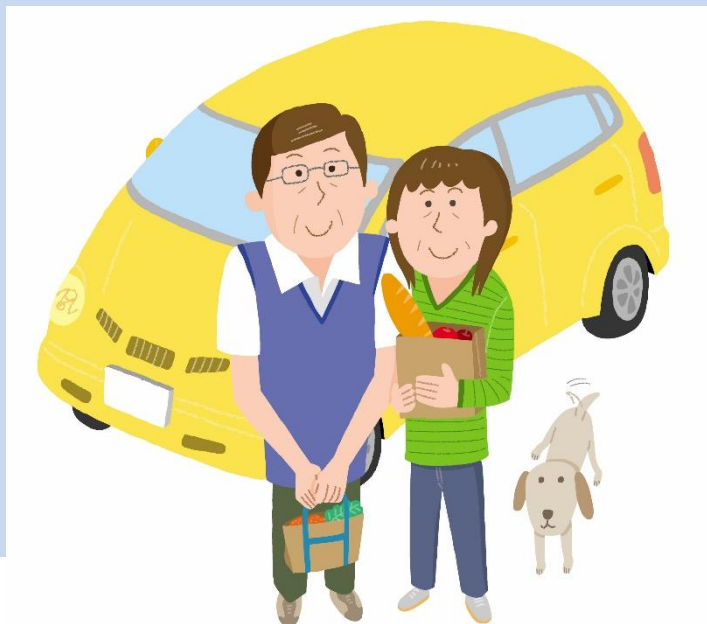


楽しくて時間がたつのを忘れてしまう

脳を元気にし、話し合いながら学ぶ

「いきいき運転講座」



一般社団法人 日本自動車工業会

本日の内容

- 「いきいき運転講座」の考え方と特徴……………30分
- 「いきいき運転講座」体験……………40分
 - 交通脳トレ
 - 安全トレーニング
- 活用のポイント・質疑応答……………20分

交通安全教育に どんなイメージがありますか？



■黙って座って聞くだけ

■楽しくない。早く終わって・・・

従来のイメージをくつがえす講座

より安全に運転をつづけていただくために

いきいき運転講座

「交通安全トレーニング」と「交通脳トレ」を組み合わせた
新しい手法による楽しい学習



約28万人

受講者数推定(2008年8月より)

90%

受講者の反応が良かった
(主催者の意見)

データ

- 自分が発言することで意識が高まる
- 他の人の意見を聞くことで、自分が気づかないことがわかる
- 時間があっという間にたち、楽しく勉強できた



受講者の声

- みんなに考えさせ、発表させる教室は新鮮でよい
- 人の意見を聞くことによって気づきや学びがある
- 話し合う、考える、見るなどいろいろな場面があり楽しい

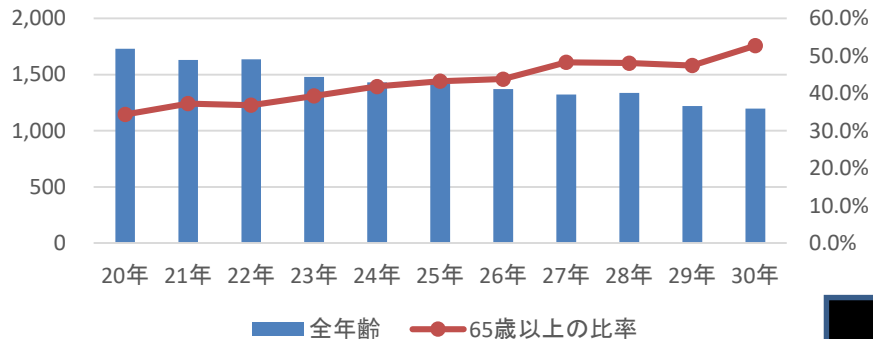


交通安全ご担当者の声

1. 「いきいき運転講座」の目的

■ 高齢ドライバーの交通事故比率増加

四輪車乗車中死者数に占める65歳以上の比率
H30年に52.7%に



■ 運転を続けたい

- ・交通手段が他にない
- ・便利な暮らし
- ・家族や友達との交流
- ・趣味を楽しむ

● 「**運転を必要**」とされる高齢ドライバーに、
長く健康で安全に運転を続けていただくための
交通安全教育プログラム

一般社団法人 日本自動車工業会のご紹介

- **日本の自動車製造メーカー14社を会員とする公益法人**
自動車工業の健全な発達を図経済の発展と
国民生活の向上に寄与することを目的として設立。
- 税制や交通システム、安全・環境に対する課題など総合
的な観点から、自動車の利用環境向上に取り組んでいる。
- 交通安全活動
 - ・春・秋の交通安全運動期間に合わせた**交通安全キャンペーン**
 - ・JAF・全日本交通安全協会と連携した**各種セーフティトレーニング**
 - ・高校生を対象としたプレドライバー教育用教材などの提供



交通安全、心理学、脳科学の専門グループとともに開発

高齢者交通安全教育推進委員会 (2004年9月設立)

[委員長]

鈴木春男 自由学園最高学部長、千葉大学名誉教授

[委員]

太田博雄 東北工業大学教授

岡村和子 警察庁科学警察研究所交通科学部
交通科学第二研究室主任研究官

川島隆太 東北大学加齢医学研究所脳機能開発研究分野教授

溝端光雄 (財)東京都高齢者研究・福祉振興財団
東京都老人総合研究所社会参加・ヘルスプロモーション研究チーム研究副部長

吉岡耀子 (株)JAF MATE社ウェイズ編集部編集長

科学的な効果評価も実施

「高齢運転者交通事故防止対策に関する有識者会議」(警察庁)で 「いきいき運転講座」が、高い評価を得る

★有識者会議の「提言」(2017年6月30日)

高齢者の交通事故防止に向けて取り組むべき今後の方策

[共通認識]

- 交通事故分析に基づく効果的な対策
- 高齢運転者の特性等に応じたきめ細かな対策
- 関係機関・団体等が連携した総合的な対策 の実施



■有識者会議の中で、委員から「いきいき運転講座」の有効性が発言される

■高齢運転者の安全運転の継続を支援するために重要な

・コーチング技法による気づきの促し

・補償運転の促し

・危険予知トレーニングの有効性

・「地域」を中心とした高齢者の自主的安全活動が重要

などが「いきいき運転講座」で採用されている

最近の研究から

高齢者が運転やめたら……

運転を続けた人に比べて要介護となる可能性が約2倍高くなる

(筑波大学の研究チーム) 朝日新聞 2019年9月6日

高齢者が運転やめたら—— 要介護可能性「2倍」

高齢になつて自動車の運転をやめた人は、運転を続けた人に比べて要介護となる可能性が約2倍高くなる——筑波大学のチームがそんな調査結果を公表した。高齢ドライバーによる事故が問題になる一方、移動の手段を失うと、活動量が減って健康度が下がる——といわれており、指摘が裏付けられた形だ。

活動量減り、健康に悪影響か

尋ね、認知機能を含めた健康状態を調べた。さらに16年11月まで追跡し、運転継続の有無と要介護認定との関係を分析した。

身体能力や認知機能が落ちれば、運転も難しくなりやすい。こうした事例が結果に現れないよう、10年の調査後すぐに要介護となった人は除き、健康状態の違いが影響しないよう統計学的に調整して分析した。

その結果、10年時点で運転をやめていた人は、運転を続けた人に比べて要介護となるリスクが、約2倍であった。このうち、運転はやめても移動に電車やバスな

どの公共交通機関や自転車を利用していた人では、同様のリスクは1・6倍にとどまっていた。一方、運転をやめて移動には家族による送迎などを利用していただけで健康に悪影響が及ぶことと考えられるという。

結果をまとめた筑波大学の市川政雄教授(公衆衛生学)は「事故の予防はもちろん大切だが、高齢者に対する安全運転の支援や、運転をしながらも移動がしやすい街づくりといった対策も急ぐべきだ」と話す。

(編集委員・田村建二)

「移動の手段を失うと、活動量が減って健康度が下がる」

「事故の予防はもちろん、高齢者の安全運転への支援が大切」

2. 「いきいき運転講座」の考え方

1. コミュニケーション力を高める



「いきいき度」UP

2. 自分で考え、行動を変化させる



「交通安全力」UP

2. 「いきいき運転講座」の考え方

1. コミュニケーション力を高める

2. 自分で考え、行動を変化させる

「いきいき度」UP

「交通安全力」UP

- 活動的な人ほど長生き
- **何でも話し合える仲間をもっている人ほど、交通安全意識が高い**

- 「教え込む」のではなく、「気づき」を通して、安全性を高める

高齢ドライバーの交通事故減少

3. 「いきいき運転講座」の特徴

特徴1.

よい仲間づくりをする

● 良い仲間がいる人は安全に行動できる

★ 小グループ学習

★ 活動的な暮らしのすすめ



特徴2.

話し合いを中心に進める

● 意見を出し合って自分たちで問題解決

★ 気づきを促し、行動を変化させる教育メソッド

・コーチング ・役割演技法 ・ミラーリング



特徴3.

「脳機能」を高めながら 交通安全を学習

● 交通脳トレ+話し合い



+



特徴4.

免許のない方でも参加できる

● ドライバー、歩行者、自転車の立場で話し合い

★ 地域の交通安全活動に役立つ



一時停止標識のある信号機なし交差点の通過

質問「どのように通過しますか？」



一時停止標識のある信号機なし交差点の通過

質問「どのように通過しますか？」

正解率

80%



一時停止標識のある信号機なし交差点の通過

質問「どのように通過しますか？」

正解率 **80%**

実際に行動チェック



一時停止標識のある信号機なし交差点の通過

質問「どのように通過しますか？」

正解率 **80%**

実際に行動チェック



正しい行動 **15%**



知識と行動のギャップをどう埋める？

●正しい答えを教える？

それとも

●考えさせる？

知識と行動のギャップをどう埋める？

●正しい答えを教える？

それとも

●考えさせる？

知識と行動のギャップをどう埋める？

●正しい答えを教える？

それとも

●考えさせる？



■小グループのディスカッション

■運転の問題行動をビデオで観察 など

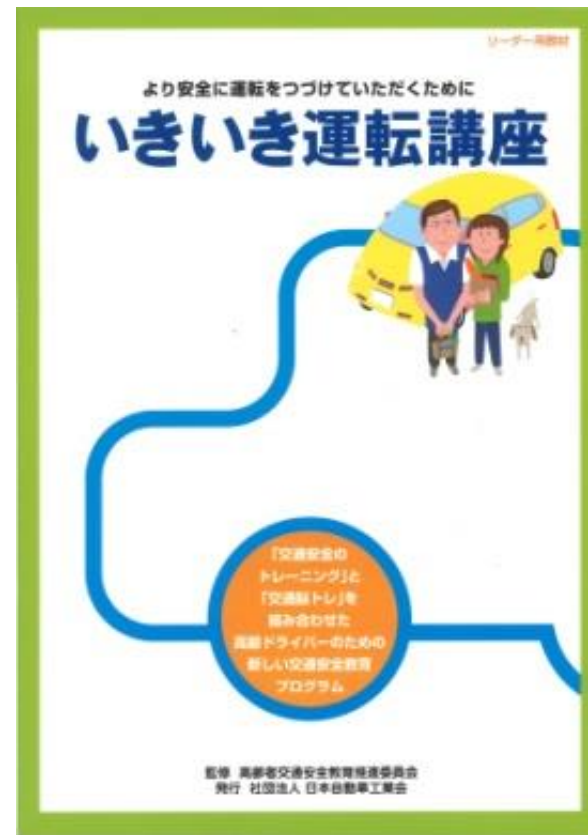
4. 「いきいき運転講座」の構成

交通脳トレ

交通安全トレーニング



+

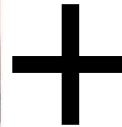


交通脳トレ

- 毎日10分、3ヵ月実施
- 講習会では1日分を実施

「交通脳トレ3ヵ月」

交通安全に必要な脳の機能を高めるトレーニング。脳トレの開発で知られる川島隆太東北大学教授が開発したトレーニングです。毎日10分、3ヵ月続けましょう。



交通安全トレーニング

- 4種類 × 3レベル = 12回分

1	いきいき運転・ いきいき生活	レベル 1 2 3	いきいきと暮らす方ほど、長生きし、安全に運転できることがわかっています。いきいき運転といきいき生活をテーマに話し合い、知識を交換することで、安全行動と安全意識が向上します。	
2	危険予知 トレーニング	レベル 1 2 3	運転席からとらえた交通場面を写真で見ながら、どこに危険がひそんでいるか話し合い、運転に大切な危険予知力を高めます。	
3	ヒヤリ体験を 生かす	レベル 1 2 3	みなさんがお住まいの地域の地図に、ヒヤリとした交通体験を書き込み、原因や対応を話し合い、地域の危険箇所やヒヤリを防ぐ方法を考えます。	
4	自分の運転を 振り返る	レベル 1 2 3	ビデオで撮影した他のドライバーの運転行動を観察して、問題点を話し合うことを通して、自分の運転を客観的に評価し、向上させる能力を高めます。	

交通脳トレ

- 毎日10分、3ヵ月実施
- 講習会では1日分を実施

「交通脳トレ3ヵ月」

交通安全に必要な脳の機能を高めるトレーニング。脳トレの開発で知られる川島隆太東北大学教授が開発したトレーニングです。毎日10分、3ヵ月続けましょう。




交通安全トレーニング

- 4種類 × 3レベル = 12回分


1 いきいき運転・いきいき生活 **レベル 1 2 3**

いきいきと暮らす方ほど、長生きし、安全に運転できることがわかっています。いきいき運転といきいき生活をテーマに話し合い、知識を交換することで、安全行動と安全意識が向上します。




2 危険予知トレーニング **レベル 1 2 3**

運転席からとらえた交通場面を写真で見ながら、どこに危険がひそんでいるか話し合い、運転に大切な危険予知力を高めます。




3 ヒヤリ体験を生かす **レベル 1 2 3**

みなさんがお住まいの地域の地図に、ヒヤリとした交通体験を書き込み、原因や対応を話し合い、地域の危険箇所やヒヤリを防ぐ方法を考えます。



4 自分の運転を振り返る **レベル 1 2 3**

ビデオで撮影した他のドライバーの運転行動を観察して、問題点を話し合うことを通して、自分の運転を客観的に評価し、向上させる能力を高めます。



「いきいき運転講座」の進め方 基本パターン

講座の流れ 1時間～1時間半

●準備

1 あいさつ 5分
自己紹介 5分

2 交通脳トレ 10分
■問題2枚

3 交通安全トレーニング
(話し合い) 40分～1時間
■ワークシート

4 まとめ 5分
■今日、覚えてほしいこと

●あとかたづけ






リーダー用教材に
進め方の台本
経験の浅い方も



リーダー用教材「今日、話し合うための台本」

- あいさつ、話し合いの進め方、発言を引き出す方法
- そのまま読み上げるだけで、講座をいきいきと進められる
- 初心者もベテランも同じレベルで講習を展開できる



10 自分の運転を振り返る レベル 1		今日、話し合うための台本	
進める順序	リーダーと班長にやっていただくこと	話し方の例	ポイント
<p>○準備 10分</p> <p>①リーダーあいさつ 10分</p>	<p>※参加者の人数に合わせて、あらかじめリーダーは班長を決めておく。</p> <p>①班を編成（5～8人）する。</p> <p>②机やいすを並べかえ、班ごとに着席する。</p> <p>◆リーダー（班長の代表）</p> 	<p>●今日は、みなさんに一時停止標識はあるが信号のない交差点を通るドライバーの様子や、自転車や歩行者の様子を写したビデオを見ていただき、その人の行動で何が問題か、問題をなくするにはどうしたらいいか、同じ場面でみなさんはいつもどんな行動をしているのかを話し合い、考えていただきます。</p> <p>●「人の振り見て我が振り直せ」という言葉があります。私は子どものとき親からよくいわれたのですが、交通場でも同じことがいえるのだそうです。他の人の行動を見て問題点について考え、意見をいうことで、自分の行動の問題点にも気づきます。今日のトレーニングはそこをねらっています。ぜひ積極的にご発言ください。</p> <p>●これから班ごとに班長さんや私が進行役になって話し合っていきます。各班で出した内容を後ほど班長さんから発表していただきますので、班長さんにはまとめてお願いします。</p>	<p>★準備の必要上、初めを実施するときは事前に班長を決めておきますが、次回からは自薦、他薦で班長を決めるのもよいでしょう。</p> <p>★参加者のみなさんに、トレーニングの目的、内容を理解してもらっています。</p>
<p>■班ごとに自己紹介</p> <p>②交通脳トレ 10分</p> <p>■「交通脳トレ」問題2枚配布</p>	<p>◆班長 ご自分を含め、全員に自己紹介をしましょう。（お名前、お住まいの地域、運転歴、最近車が出かけた所など）</p> <p>◆班長</p> <p>①「交通脳トレ」問題2枚を配る。</p> <p>②2人1組になり、問題終了までの時間を腕時計（秒針付き）で計って、用紙に記入してもらおう。</p> <p>▼1枚目「文字ひろい」または「まちがひ探し」 ▼2枚目「計算と音読」</p> 	<p>●最初のトレーニングは「交通脳トレ」です。この問題は3ヵ月分あるのですが、今日はそのうちの1日分（2枚）をやっていただきます。</p> <p>1枚目の問題では、安全運転に大切な、運転中にとっさに危険を察知する能力を支える、脳のトレーニングを行います。</p> <p>2枚目の問題では、簡単な計算問題（※）と小説などの一部を音読していただき、脳を活性化します。2枚1組の問題を少なくとも3ヵ月間続けると、効果が出てきます。</p> <p>●2人1組になり、問題にかかった時間を腕時計（秒針付き）で計ります。1枚目の問題から始めます。「スタート」の合図をしたら、時間を計ってください。では、スタートします。（2枚目の問題も同様に行う）</p>	<p>★お互いのことを知ると話がスムーズに進みます。</p> <p>★まず、「交通脳トレ」から始め、脳の働きを高めます。</p> <p>★開発者は、脳のトレーニングで知られる東北大学の川島隆太教授です。</p> <p>※やさしい問題をすばやく正確に計算することが、脳を活性化させます。</p> <p>★時間の計り方を練習してから始めましょう。</p> <p>※「交通脳トレ」の詳しい情報は、別冊子「交通脳トレ3ヵ月」をご覧ください。</p>
<p>③自分の運転などを振り返る 2時間 25分</p> <p>■「ワークシート みなさんへの質問」1枚配布（10分）</p>	<p>◆班長</p> <p>①「ワークシート みなさんへの質問」1枚を配り、参加者に記入してもらおう。</p> <p>②進行役として、1問ずつ全員に答えと理由を聞く。</p> <p>③1問ずつ参加者の答えをメモし、全員が答え終わったら、簡単にまとめて正解をいう。</p> 	<p>●交通安全についてみなさんの知識を確認する問題です。 [書き終わったら]</p> <p>●では問1の問題について答えを○さんか順にお願いします。 [発表し終わったら]</p> <p>問1について</p> <p>●四輪車の交通事故はいろいろな場所で、いろいろな形・原因で起きています。問1の答えが多かったのは△△で□□、……でした。</p> <p>●正解は「4.安全不確認」です。正解は○人でした。</p>	<p>★各問で正解が多いときは、「よくご存じですね」とほめましょう。正解が少ないときは、「みなさんが思った答えと実際はずいぶん違いますね。いい機会ですので、交通事故の実際を知っておいていただくといいですね」と話しましょう。</p>

自分の運転を振り返るレベル1

進め方

■交通脳トレ

「まず脳の機能を高めておきましょう」

■1日分を実施(時間がないときは1問)

■よいムードづくりに役立つ

2 まちがいを探しましょう 【車のある風景】
下の2つの絵の違うところを6個探してください。
全部見つけ出すまでの時間を計ってください。



分 秒

5 計算しましょう
5 音読しましょう

(1) $5 + 3 =$	(11) $5 + 2 =$	(21) $5 + 4 =$
(2) $7 + 4 =$	(12) $9 + 1 =$	(22) $7 + 7 =$
(3) $5 + 1 =$	(13) $7 + 3 =$	(23) $1 + 9 =$
(4) $3 + 2 =$	(14) $4 + 5 =$	(24) $3 + 6 =$
(5) $8 + 1 =$	(15) $6 + 3 =$	(25) $5 + 8 =$
(6) $9 + 5 =$	(16) $1 + 2 =$	(26) $4 + 6 =$
(7) $1 + 4 =$	(17) $8 + 5 =$	(27) $8 + 7 =$
(8) $6 + 2 =$	(18) $3 + 4 =$	(28) $9 + 6 =$
(9) $2 + 1 =$	(19) $2 + 5 =$	(29) $2 + 8 =$
(10) $4 + 3 =$	(20) $6 + 9 =$	(30) $6 + 7 =$

分 秒

音読しましょう
できるだけ速く、正確に読んでください。

このころ① 算目算目
私はその人を常に先生と呼んでいた。だからここでもただ先生と書くだけで本名は打ち明けない。これは世間を侮らるゝ恐ろしい心持からである。私が私にとって自然だからである。私はその人の記憶を呼び起こすこと。すく「先生」といいたくなる。筆を執っても心持は同じ事である。よそよそしい顔文字などとても使わない。

私が先生と知り合いになったのは鎌倉である。その時はまだ若々しい青年であった。暑中休暇を利用して海浜宮に行った友達から呼び合いという理由を受け取ったので、私は多少の金を工面して、田舎ける事にした。私は金の工面に二、三日を費やしたところ、私が鎌倉に着いて三日と経たぬうちに、私を呼び寄せた友達は、急に無元から帰れという電報を受け取った。



